



活要録

明治七年戊戌

橘川軒

服部文庫  
117  
335





高二十九

人年

明文

治十二

信

田



人一思  
除

玉勝ノ政  
二地  
臨

望  
地  
塗

火ノ原  
然  
景

天  
地  
氣

天  
地  
氣

天  
地  
氣

天  
地  
氣

天  
地  
氣



陽々好々此此完々形所  
う生ス

五ノナ

卷之四

卷之四

出給了共

金瓶梅

1

11



皇祖云、ち中ノ尊ノ再升ノ中正ノ原に在り  
天ノ二名授キ、天地無窮ノ在り、  
方出左神、

皇國云、天ノ在中尊日、天ノ二柱神、  
昇降降臨、五行形化ノ祖神、  
方無方神、神ノ其統ヲ、諸國終イ、  
唐氏お授キ、事ヲ統連、終イ、  
方無方神、神ノ其統ヲ、諸國終イ、

皇國云、天ノ在中尊日、天ノ二柱神、  
昇降降臨、五行形化ノ祖神、  
方無方神、神ノ其統ヲ、諸國終イ、  
唐氏お授キ、事ヲ統連、終イ、  
方無方神、神ノ其統ヲ、諸國終イ、

王性  
ヲ代ハ

皇祖云、天ノ在中尊日、天ノ二柱神、  
昇降降臨、五行形化ノ祖神、  
方無方神、神ノ其統ヲ、諸國終イ、  
唐氏お授キ、事ヲ統連、終イ、  
方無方神、神ノ其統ヲ、諸國終イ、

皇祖云、天ノ在中尊日、天ノ二柱神、  
昇降降臨、五行形化ノ祖神、  
方無方神、神ノ其統ヲ、諸國終イ、  
唐氏お授キ、事ヲ統連、終イ、  
方無方神、神ノ其統ヲ、諸國終イ、



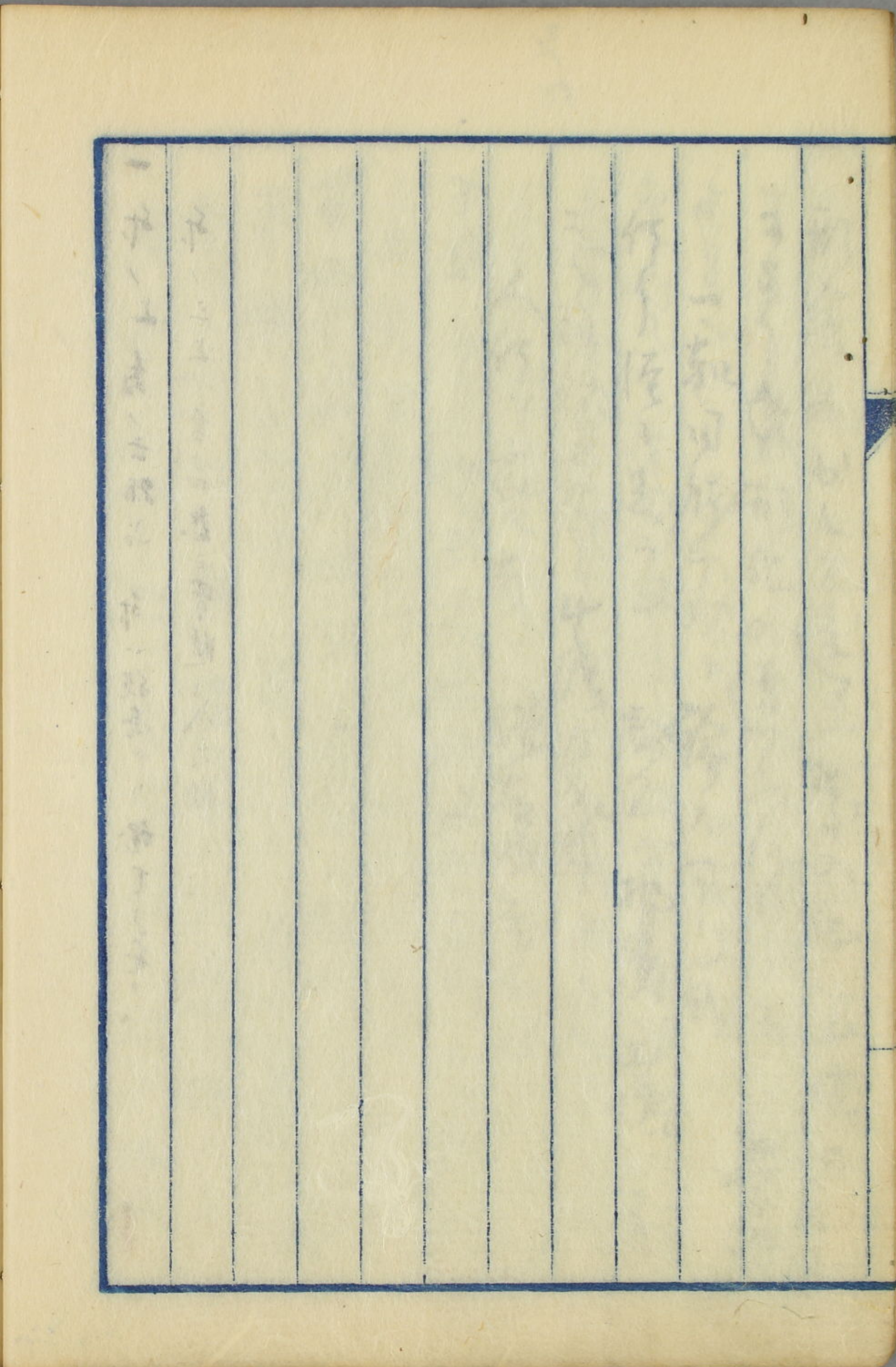
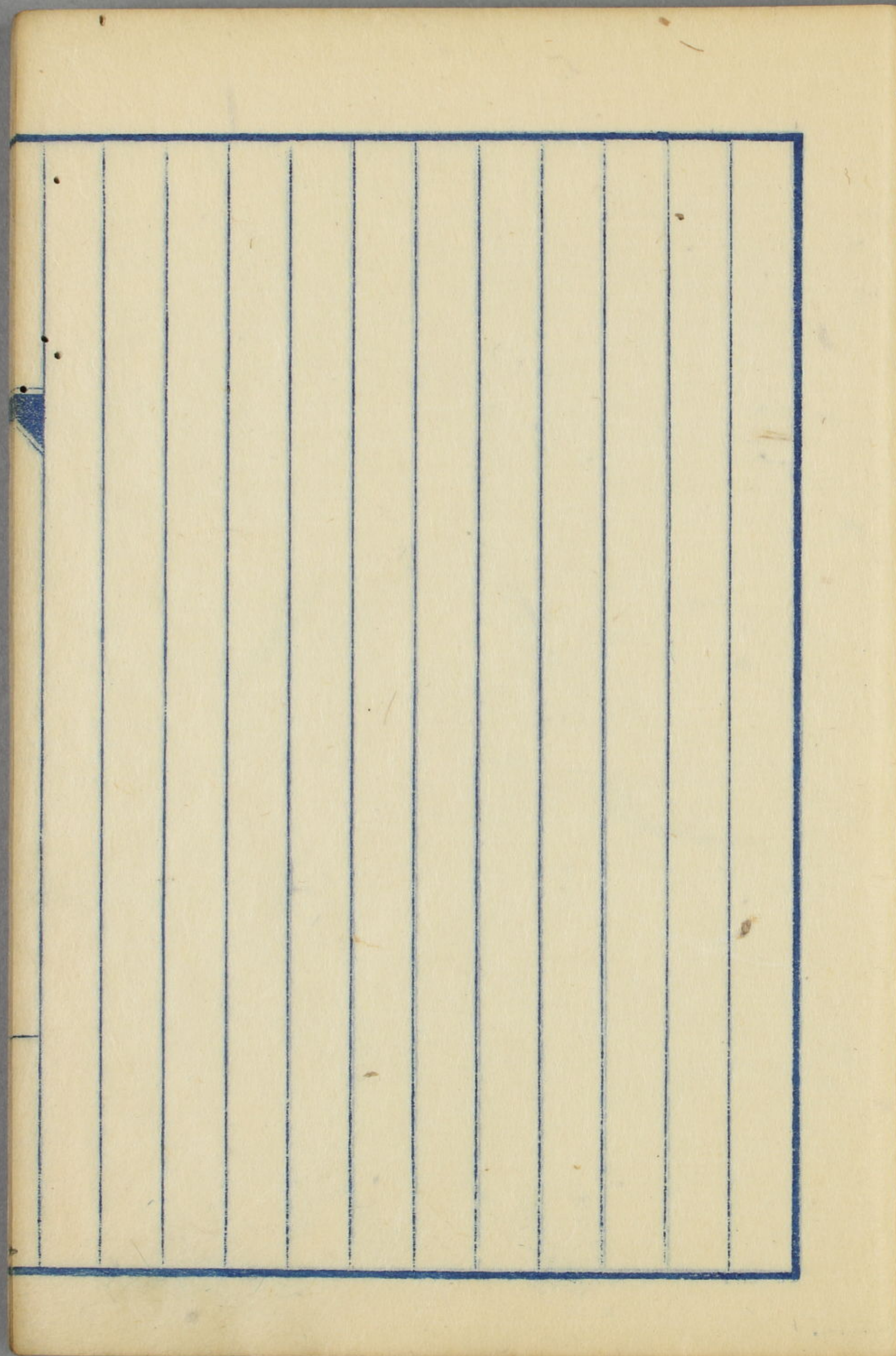




形をみかき違ふ事の極に上境の  
より身形死の邊りより死する  
一親目形より死する事  
何れに違ふ事  
人何ん處哉 是をみる事

一升ノ上 爲ノ亡跡 升ハ脱素ナリ 脱素ニ入る







以下  
3丁  
白紙











一合月、日夜、伊勢郷ノ土藏、う破り、盗賊入ル由  
上ニ多ク

是ノ上ニ

金、ウ、百、兩、計、盗、ト、申

此、上、内、城、一、人、ニ、ア、ラ、ス、而、人、レ、斬、細、人、レ、以、ス、  
果、シ、テ、伊、勢、入、大、工、ノ、由、ナ、リ、サ、セ、ハ、藏、方、ハ、名、已、ト  
申、ト、云

一云、伊勢郷、を、女、系、ハ、川、前、保、守、病、ヲ、以、

明、夫、ノ、上、ニ

此、所、上、夜、明、夫、日、中、入、ル、難、火、敗、ル、故、以、盗、ヲ、  
即、由、通、傳、ト、云、然、レ、ニ、高、月、行、土、藏、ヲ、破、リ、賊、下、リ

一、日、ニ、ナ、リ、云、ハ

良、一、二、一、一、四、リ、ニ、云、係、家、主、ア、リ、ト、云、テ、疑、ヲ、請、ル

傳、傳、屋、主、中、ナ、リ、裁、情、ノ、役、者、ニ、系、テ、悉、着、ス、ル、  
心、不、レ、故、ナ、リ、留、者、ノ、修、養、セ、シ、ナ、リ、禁、ヲ、病、ノ、分、テ  
外、ノ、監、修、ト、称、シ、大、ニ、意、義、ヨ、リ、起、ル、ト、云、フ



三月十五日外國人より来りて人々通譯を同記する人  
上官より是を無し此人會する事學人如く思ふ由り如くト云

山水茶一... 西を愛する海

新... 曰く男をナルへし蒙の臺蒙ノ系トス且つ四九ノ一後  
龍... 陽をナル此陽を現し出ルリ男子トスを四九ノ一後  
陵... 位ト云へん身所ニシテハん下腹中、當ル子ノ在ル場あり  
平生男やうと云ふ表ニ現し出ルル陽ヲ見テ男やう決スル  
陽中正より主候ハ即ハ意ハス水子ナリ玉子ノ象ハス坎ノ系  
亦思ノ艮成リタル形當り 亦曰尚後生子ハスニニテ  
中ノ子ト云ス一人ハ云々タル意トス蒙ハ暗中ニ陷ル系トシテ  
亦云此子ハ尚弱病身ナル故生子モ小ク遲ニシク  
ナレト云ス 亦云此思生ルハ君會スル云々時ハ斯ク云カ  
表食子ト云ヘシト云ス 亦云此子ハ尚弱ナル意トス

易ハ未済ニ云ニテ漸ク若葉ノ意ナリ 亦蒙ノ未済體ハ壯走  
ナレサル意ナリ 亦云弱ハ不悉ノ的中ス此二人ハ、當ル候ニ  
其より壽ナル事ヲ感シ卦未済卦杯手、操テ是テ詰問

易ハ未済ニ云ニテ漸ク若葉ノ意ナリ 亦蒙ノ未済體ハ壯走  
ナレサル意ナリ 亦云弱ハ不悉ノ的中ス此二人ハ、當ル候ニ  
其より壽ナル事ヲ感シ卦未済卦杯手、操テ是テ詰問  
易ハ未済ニ云ニテ漸ク若葉ノ意ナリ 亦蒙ノ未済體ハ壯走  
ナレサル意ナリ 亦云弱ハ不悉ノ的中ス此二人ハ、當ル候ニ  
其より壽ナル事ヲ感シ卦未済卦杯手、操テ是テ詰問



五月三日乙未保小六女病ラトナリ

墨色

一ノ字

ハ字尾ニ至リ程

カスリテ括レノ

横ニ通過テ底

タル所アリ

此字チノ一子ヲ曳タリ且口カスリテ  
括ク透アリテ神メリ致眼ノ新云  
此女ノ横元ニ懸ル身振テアルト新ス訪不  
此ニ連テリシカ夫ニ懸ル且云ノ男チカカ  
訪カサリト新ス括透此ニテ血腥クアルヘ  
新ス此条既ニウニ成テ有ノ病メリ新  
タル染アリ括ニ此ヲ見シ給キタルハ出  
如シ且此字既ニウニ成ル所ニテ見カ  
領ノ不ニ成ル所ハ其ノ未ニ括アルヘ  
此ノ字云此ノ病更ニ此ヲアルモ其病トナリナリ

此ノ病云此ノ病更ニ此ヲアルモ其病トナリナリ

云フ此一病ハ此病人ノ證候ニ一カ有ルト云フ由此一證ニ去年  
此ノ病ハ此病人ノ證候ニ一カ有ルト云フ由此一證ニ去年  
方大ニ懸ル一證ノ要領ニテ未チカカテ括透此アリシカ夫ニ  
幸ハ此ノ病ハ此病人ノ證候ニ一カ有ルト云フ由此一證ニ去年  
此ノ病ハ此病人ノ證候ニ一カ有ルト云フ由此一證ニ去年  
此ノ病ハ此病人ノ證候ニ一カ有ルト云フ由此一證ニ去年

全五月五日三十四歳女ノ病

一ノ字

並ノ伸ハ何モ角モ角ナリ屋敷ニテ坐シテ不楊ナルナリ

並ニ家業ナリ今ノ伸ハ何モ角モ角ナリ屋敷ニテ坐シテ不楊ナルナリ

何モ角モ角ナリ明チ屋敷トナルナリ新ノ形



節リモノナシ陰ハ陽ニ生スルニテ節リナリ今節ノモノ  
ナシ神出トナル神ハ常ニトナルモノナリ  
右明七年甲戌ノ年島我男江氏ノ占何モ云々  
此處ノ如ク神トナル男ノ神妙可案ナリ果シテ佐  
佐ノ神ニテ身ヲ神セラレタリト云々神ハ教園ノ子

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible due to fading and ghosting.)

一今日四ノ余田月 銀を所

（Faint handwritten text, possibly a date or reference.)

右佐所降リナリ連日改メリ 田ノ事ナリ

此處連日ト申テ汚水除キノ溝潰掘ルノ故家ヲ解キ除

却テ今復シテ汚水大難ニシテ神出トナルナリ然レ四間

四方ハ其候ニシテ所持ノ屋敷あるト云ス此四間四方ト云

我ニ云々云々四ツ陰又云々云々果シテ云々云々云々活用

云々云々心得ヘシト云ヨリ云々シテ忽然ト神地ノ云々ニアラズヤ

一四三十四日未田月

一一一、一一一、二カ

（Faint handwritten text at the bottom of the page, possibly a signature or date.)







名之文大高ハ二便先故新病トナレ此平生胃弱アリ  
云病重アリナリ

今七日麻布国産ノ物ヲ用テ

草  
 一白  
 一一人  
 一一去  
 一一已  
 一一由  
 一一由  
 二銀  
 概  
 子  
 以  
 方  
 新  
 不

其國氏庶布ニ家ヲ求テ移シ自ラハ外國ニ行移リ一而此者俄  
 痛乾ニ效ホテ新ニテ耶レ新ニ遷ルヲ求メテ亦ニ移ルアリテ  
 科ノアリト新ノス候ノ者大ニ多キ程移ルノ物ハアルヲ  
 移リ成テ見ニトモ家ヲ伺キタルナリキタリヨリ病ヲコレト

從弟少子長男

市

常々道にあり  
土佐侯にあり

續編

一同二十七日男在月老處已下糸斤口糸

陳

風氣急脈病

頤之











此人は内ニ如ク思ハルニ因テラ指ハ油取ノ内ニ因テ夫  
ラ寄望ニモヒテクモウセシ金額モ四軒會ラ歸セ夫  
故モ人ノヤク事ナシモタレモ夫レテノ子イナラシ  
トテ金名ル亦市上ニ寄取ナシ夫レモモ思ハル  
ト申ナリ早ク手ナクノ内モモ時ノ子モ思ハル  
何デモナリシニ夫レニ後シタル後ハラ云ナリ

同日降参ノ士族今ニ高貴人ト賜ルト云々

漢書

嘉慶初改河

卷一百一十一

上卷

予相ヲ見ルニ顔度ク友人ヤアル相ニ走ルナリ服似ニセリ  
有尾者クタレテ唇ニアリ頬全節ニシク作シ下節ナリ  
新得之ノ相アリ故ニ是ニ安ミト云等信セズ天  
道ニ任スル者余アリ無レトセウ友のニ云ク急テ生シ  
与ニニナルニ此レニ塞ミノ部ヨリ云ナリ雲ニハ難ナリ

飛海より天下六年七年迄ヨリ古族ヲ撫テ商人トナリ  
 神ノ利多クシトセニ年ヨリ高利ナリト新スニ年  
 三朝より所ナリ憂ノ既海ハ世成候能故ニ民ニ既海  
 才代限リト成テハ故唐急ノ時ナリ

[illegible]



一同 二十四日

二二二一、洪ノ上を横  
新ト云是下ハ航海ニ舟ヲ渡ヘ高クナリ成ニテ  
スヘシ然レテ新モ利運ナリ品物販賣ノ至ルニハ  
新大ヘシテ新大此方云々ナリ如新モ亦運送  
有積中ニ休合セリ既ニ方々限ナリナリ欲ハ未  
ナリ云々ト云 漁ハ盛ルナリ示ルト新スルハ  
是ハ坎ニ割ルナリ中ノ一隅ニテ新草ノ下ニ  
格リ大ニ集ルナリ示ルハ示ルナリ

日四月 三十三日 女ナリ

ハハハハハハ

一同 二十四日

二二二一、洪ノ上を横  
新ト云是下ハ航海ニ舟ヲ渡ヘ高クナリ成ニテ  
スヘシ然レテ新モ利運ナリ品物販賣ノ至ルニハ  
新大ヘシテ新大此方云々ナリ如新モ亦運送  
有積中ニ休合セリ既ニ方々限ナリナリ欲ハ未  
ナリ云々ト云 漁ハ盛ルナリ示ルト新スルハ  
是ハ坎ニ割ルナリ中ノ一隅ニテ新草ノ下ニ  
格リ大ニ集ルナリ示ルハ示ルナリ



一  
一  
一  
一  
一  
一  
夾

實 為 進 生 廿 六 十 十 十

三十一 恒 / 卯

恒ニ常久ノ産業ヲ云ナリ人々ノ恒ノ業ナリ亦大忙ニ  
大傳ニ他事ニ造業ナラズトス故ニ恒ニ海カ主人親方  
其レ然レテ述ビ家他ヲ慮レタルヘシ此亦造化ニ年テ  
大ニ心死ナク乾ルヘシト云彼恒ホナリ大忙ハ陽元進ミ  
金ニテ極亮ノ輝キ羊ヲ驅ル終ルノ象アリ白鹿カ小登  
金ニテ乾ノ象ニ取ル故ニ年イ乾ルヘシト即チ  
此者云云成程親方ノ年ヨリ何ゾノ金ハ世ニタルカ  
之入内ニテアリ之金ヲ債イ親方ヘ申サスニヤウ  
肉ニヤモ高雲ニスルカト新メ云ク如名ト云フ  
大忙ハ年ノ象故ナリ







三十一

五月廿二日、武男  
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

一五月廿二日武男

[illegible]

新ニテ云汝ノ屋敷ヲ水ヲ轉定スヘシ然ルニ此屋敷  
亦ニ銘至有テ公裁ニ及フノ事難アルヘシト云  
然リ即カニ此ナリ是言ハクノ意トシ石ノ坤屋ニヤトシ  
元者ノ御方難生大ト云ス京元忠ニ的叙ノ意トス故ニ

考ノ由ヲ考メテハ此ノ如ク示古キ古道全ク商賈ニスルヘシト  
 斯ル元安ヲ皆古キ時代ノ物トス卦象能ク象味ス

同廿九日二十九歳男上ニ  
氣方所ノ人ナリ

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

名汝身上一件、誘ハル、意ヲトリテ不随、一氣ヲ有テ  
 已カニテ誘ハル、ナリ、不随、意ノ漁、併ノ糸、水ヲ濺ク、  
 中ノ子、其親ノ意トシ、此親カ、龍ニテ七家ニ降ル、且、  
 草ニテ仰、糸ル、ナリ、其子、カ、  
 親トナル、是、テ、仰、糸リ、ナリ、且、意カ、比、ナリ、  
 見、テ、意、ト、ス、此、部、糸、ハ、テ、活用、ナリ、  
 既、ニ、亡、者、今、リ、マ、テ、三、日、ニ、  
 ナ、シ、タ、ル、後、ハ、モ、ナ、カ、ス、  
 ナ、リ、在、ル、果、モ、ト、申、タ、リ、  
 ナ、シ、メ、ル、ニ、ア、ラ、ス、必、ラ、ス、  
 應、カ、ル、ノ、觀、ニ、モ、多、ク、  
 教、ヲ、  
 今、現、在、死、タ、ル、モ、ノ、  
 大、ニ、平、生、心、  
 此、者、







東京、河へ流る。源政二条を川にうつり、  
多摩川より、多摩川より、多摩川より、  
親い、水たたり上り、水たたり上り、  
永く流る。水たたり上り、水たたり上り。

開治九年丙子二月廿日

五十二年男、運、六、未、

蒙之伸に成り

蒙ハ童蒙ノ象ニシテ天下ノ象ヲ示キ育スヘキ系トスニ万ハ  
 中正ニ比多テ世ヲ救フ主タリ上交ハ教海ノ面ヲサルヲ以伐ツヘキ  
 小人ナリ然ルニ其象坤ニ大國トシ臣道ノ終トス是ヲ伐テ王家  
 ラ奪テ疆セントスルニ初ヲ伸ミ陽ナリ進伐ノ義ナリ終々自ラ  
 害ヲ陷セラレナリ故ノ天ヲ平治スヘキ志ニ有リ陽徳ノ病  
 ナキ意ニシテ情ヲ養フヘキ志ニ拙ナキ意ニシテ致ニ志ヲ亡テ

系トス如新ニ生涯志ニ達ス不棄聽スヘキ運トス

此人ニ定テ座ニ傍側ノ人ト見エサシ憤一鄙ノ氣  
有テ此ノ人ニ此君ニ奉テ刺シテ遂白ラ成シテ  
除公ヲ以テ其任ニ不當トス然レニ却テ所  
移用ナリ自ラ

我ヲ辞シ王ナリ



一全日

朝鮮ノ裁判如何ヲ云

一三二一三二一三二一三二一

古者ノ師也ナリエカニ重シテ家人ト成ル秘親ナルナリ但ニ貴ニ  
先宗ナリ

子三三ナセリニナハ最男

一三二一三二一三二一三二一

古者ノ意ナリ信ナリ云々ト人ニ金ヲ欺キ取ラ

ルナリ若クニ行ヒレズ云々信ナリ者ニ西京ト云フニ云ヒトス

私系信ナリナリヘシカニ信ナリト云フニ云ヒトス

リ信ナリト云フニ云ヒトス

此ニ云フニ云ヒトス

此ニ云フニ云ヒトス

此ニ云フニ云ヒトス

此ニ云フニ云ヒトス

此ニ云フニ云ヒトス







ふちナリ。有ノ所アリ。小ね。そ。お。ト。も。り。ア。リ。ふ。あ。セ。ツ。拍。本。  
時。リ。キ。ト。ち。其。人。ニ。あ。り。て。る。ニ。セ。ツ。時。リ。キ。タ。サ。リ。ト。云。



四月廿六日 三十夜馬

一一一

之

小書之三

女ノ見廻ハ馬ヲ

四月廿六日 三十一夜馬

一一一 一用天山書ニカキ中書

右品小書ハ一用天山書ニカキ中書  
ニテ腰トス陽根ノ元トシテ右相違フ所違フ不故  
足下前踏ニ病アルヘシヤト記合ノ少事ナルヘシト云ニ答曰  
余リ此病如何セシ治スルヤ陽根痛ヘテ興ラズ殆ト困  
却スルト云何リ東障ハ元中ヤト記合ノ少事ナルヘシト云ニ答曰  
此品女ノ憾ミ怒リ嘆嘆ノ言多クニ過リヘシ中書ハ馬ノ  
之ノヤ女アリ中書ハ約信ヲ因リ成シタル意ト云ハ信讀フ

標致

以テ女ヲ逢フシガテ誤ラセ小書ハ無クハス然レモ女  
ノ中書迷シタルヘシ此大機因字ニ生リ抑々中書ハ馬ノ  
女ヲ逢フ途ヲ金リタル今ニテ逢フルハ年々其意ヲ子モ  
アリシナリ其方思フニモルナリ時看思ノ名ニ極大此  
但モモノ新云申メ内都ノ元ノ年若キ如ナラシ  
此女元ノ沈黙ニシテ言語サク情慾ニ迷フ此女ハ馬ノ  
浮ヒノ元故ニ其心ニ迷フ故ニ情慾ノ元也且色白ク顔  
美婦ナラシテ以テ異流風有テ外ニモ直ニ男ヲ生セシ定  
元ニテ昔量標致ナリ中書ハ馬ノ元ノ年若キ如ナラシ  
女云九ニ誤談輻吏言及月トアリ此品人且終日云云  
的中感心ナリ此品人ハ馬ノ元ノ年若キ如ナラシ  
吾輩ニ居ル時ハ人ノ心ハ馬ノ元ノ年若キ如ナラシ  
一平生其意ナル性修下思ハ切テ言放ス互郵ハ其性情ヲ見  
ナリ然レモ誤ノ二面固病ノ病ナリ將ハ報リナリ其ノ元  
中書迷シタルヘシ此大機因字ニ生リ抑々中書ハ馬ノ  
女ヲ逢フ途ヲ金リタル今ニテ逢フルハ年々其意ヲ子モ  
アリシナリ其方思フニモルナリ時看思ノ名ニ極大此  
但モモノ新云申メ内都ノ元ノ年若キ如ナラシ  
此女元ノ沈黙ニシテ言語サク情慾ニ迷フ此女ハ馬ノ  
浮ヒノ元故ニ其心ニ迷フ故ニ情慾ノ元也且色白ク顔  
美婦ナラシテ以テ異流風有テ外ニモ直ニ男ヲ生セシ定  
元ニテ昔量標致ナリ中書ハ馬ノ元ノ年若キ如ナラシ  
女云九ニ誤談輻吏言及月トアリ此品人且終日云云  
的中感心ナリ此品人ハ馬ノ元ノ年若キ如ナラシ  
吾輩ニ居ル時ハ人ノ心ハ馬ノ元ノ年若キ如ナラシ  
一平生其意ナル性修下思ハ切テ言放ス互郵ハ其性情ヲ見  
ナリ然レモ誤ノ二面固病ノ病ナリ將ハ報リナリ其ノ元  
中書迷シタルヘシ此大機因字ニ生リ抑々中書ハ馬ノ



一一一 一五 五

天運ナリ五交ハ示正位上ラる候ニテ尊位ニアリトス其タ  
 最久スヘキ事故此ヲ父母ト見ル互部漸ニ柁ノ縁從ノ部トス  
 故ニ執リ云ク是下ノ丈ニ奉歸ナラシムルニ父母ノ心ハ恨メス且  
 父母ハ大行儀ノ禮ニキルナレハ故ニ難可ク成シテ家ヲ去ル  
 今ハ此男有テニ降リタルニ然ルヲ今家ノ道ヲ家ニ手ヒ入  
 其男ハ此ト心成スル人ナラ相從ニ及フヘシ然レバ母大ニ怒テ  
 許容セサルヘシト断リ此中男由然リ如何セバ可ナラシムル

明治十年 丁丑 七月十日 昭應 六月九日

休矣予采采、中ヨリ、高月ヨリ、  
秋序新也、傳穀口月十六日、  
大足寺、勉、并、近リ

方咸德明王  
轉體二利天

古大氣  
分一  
每夜門  
行後  
如  
古  
去  
越  
故  
作  
是  
不  
凡  
如

昨夜窓外梅香ヲ送フ  
古刹ヲ棚ヨリ送サニ  
あはれ

之利天之所與新：其方新法就七サル地カニ自トニ

油  
田  
一ヶ  
所  
小  
造

明夷之五九

七月十九日

一  
二  
三  
四  
五  
六

小造

五

明夷之五

七月十九日







私共後

神祇官龜卜御用付去庚午七月出京  
同九月中御試驗以來何等御沙汰無  
之空シテ滞在仕候付秋御改革後旧嚴  
原縣ヨリ御用無之候ハ歸縣可申付哉  
否ヲ神祇省へ同出相成候処御聞届ニ  
相成御取調中先歸縣可致旨御附紙  
ヲ以テ奉蒙 御達歸縣罷在候処今般  
神祇省被廢更ニ教部省ヲ被置教導ニ  
属シ候儀ハ申出次第其事柄御吟味御  
許容可賜旨 御布令一段奉傳兼候元  
來龜卜儀  
皇國ノ白典 朝廷ノ要道タリ事多華申上候  
迄モ無之當縣地ニ於テハ雷大臣命ノ傳教  
千百年ノ今ニ至總ニ法式ヲ存在致シ候間  
教導免許被下賜候ハ有志ノ人々ニ教  
導士度此段奉願候也



私共後

神祇官龜卜御用付去庚午七月出京  
同九月中御試驗以來何等御沙汰無  
之空シテ滞在仕候付秋御改革後旧嚴  
原縣引御用無之候ハ歸縣可申付或  
否ヲ神祇省へ同出相成候處御聞届ニ  
相成御取調中先歸縣可致旨御附紙  
ヲ以テ奉蒙 御達歸縣罷在候處今般  
神祇省被廢更ニ教部省ヲ被置教導ニ  
属シ候儀ハ申出次第其事柄御吟味御  
許容可賜旨 御布令一段奉傳兼候无  
来龜卜儀

皇國ノ旧典 朝廷ノ要道先事多華申上候  
迄モ無之當縣地ニ於テハ雷大臣命ノ傳教  
千百年ノ今ニ至總ニ法式ヲ存在致シ候間  
教導免許被下賜候ハ有志ノ人々ニ教  
導仕度此段奉願候也

明治五年年對馬國嚴原七大臣身示区

士族

國分六之助印

同七大臣第四小区惣官司

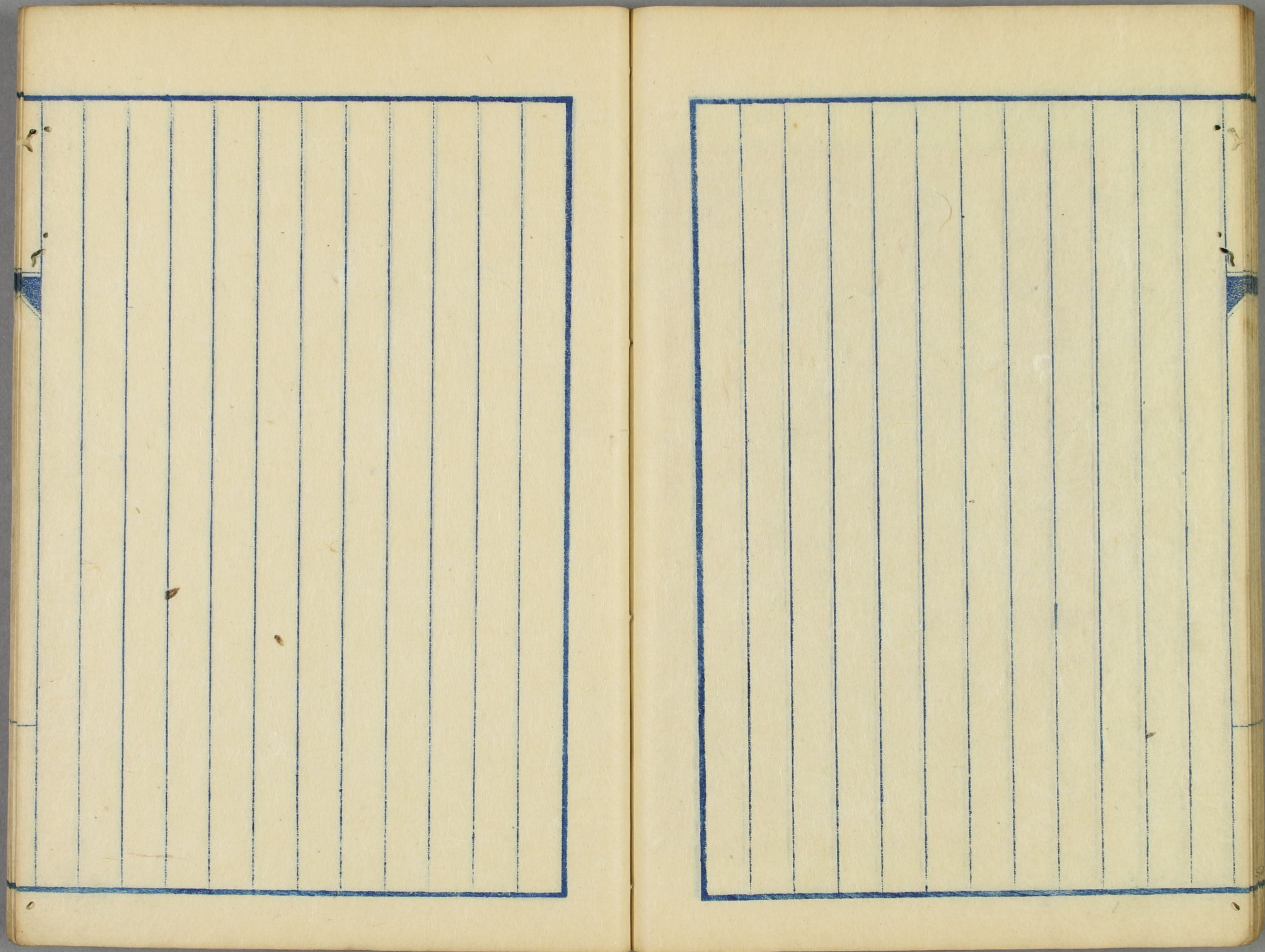
藤清一郎印

教部省 御中











以下  
14丁  
白紙



明治九年二月二十日自分ノ身と近來とノ中絶ノ事ヲ  
世人區々論テ莫ク故  
由申ハナシ  
一一一 春之難

高年者至之節ハ  
木下老ニ取  
一一一 道ノ初相素

古占時曰ニナカ余ノ人ヲ占ニ同部日ヲ續テ二人  
終ニ二其老人ニ四五日ニテ余上ニテ年中ニ死タリト云  
僕亦在ナリト云々念下

自ラハ  
一一一 或之否  
一月二日占  
一一一 一節之五カ  
目ケビヲ知ル

村玉内冬至ハ僕ヲ占ラニ  
一一一 一節ノ上カ

古



一 天文大成  
一 和名考  
一 天字拾遺  
一 經或回

一 月海  
一 日知錄  
一 萬天新經



